

## 1 京都府立網野高等学校（京丹後市）

【調査事項】「学舎」間での遠隔教育の実施について

【調査目的】

丹後地域の府立高校再編で導入される「学舎制」において行われる、ICTを活用した遠隔授業について調査する。

【調査内容】

少子化傾向が顕著な丹後地域において進められる府立高校の再編では、令和2年度から、近隣の複数の高校を1つの高校として再編する「学舎制」が導入される予定となっている。網野高校と久美浜高校が丹後緑風高校として、宮津高校と加悦谷高校が宮津天橋高校として再編される。

「学舎制」は、地域に学校を残す再編の形態であり、生徒数が少ない単独校に比べ、学舎間の連携により学校行事などの集団活動の機会を確保できたり、教員の出張授業や遠隔授業で補完しあうことができたりするメリットがあるとされる。

遠隔授業を取り入れることで、教員の専門性や希望生徒数の関係でこれまで開講が難しかった科目を設定しやすくなるメリットがある。また、学舎間での協働学習や学科連携が実現し、地域創生プロジェクト学習などの展開が期待でき、生徒たちも、授業選択の幅が広がるとともに、様々な考えに触れることができるとのことだった。

事業概要の説明を聴取した後、網野高校と久美浜高校の遠隔授業の様子を視察した。

【主な質問事項】

- ・今後の展望や課題について
- ・教員のスキルアップや体制について
- ・遠隔授業を実施予定の科目について
- ・タブレットの整備について
- ・生徒の反応について など



調査事項を聴取



遠隔授業を視察

## 2 京都府立清新高等学校【於：京都府丹後農業研究所】（京丹後市）

【調査事項】 京都府立清新高等学校の新設について

【調査目的】

丹後地域の分校を再編し、優れた教育実践を引き継ぐ学校として令和2年4月に開校する京都府立清新高等学校の整備状況について調査する。

【調査内容】

丹後地域の分校を取り巻く環境が時代とともに変化してきたことから、3つの分校を再編し、清新高等学校を新設することで、個々の生徒ニーズに応じた柔軟な教育を行うこととしている。

清新高等学校は、「京都フレックス学園構想」に基づき設立された府内2校目の学校であり、単位制により卒業までの年数を3年又は4年と選択できる特徴を有している。

また、短時間で学ぶ「モジュール授業」を府立高校で初めて導入し、国語・数学・英語を毎日30分ずつ3コマに分けて学ぶスケジュールが予定されている。モジュール授業の効果として、短時間の授業で集中力を保ちやすく、基礎となる教科を毎日学ぶことで、内容の定着が期待されている。

同校では、1年次で共通科目を学び、2年次からは学習内容に応じて3つの系列を選択できる。普通科目中心の系列以外に、農業科目中心の系列や、家庭科目中心の系列の設置が予定されている。

全ての系列において、農園芸や食品の加工販売、郷土文化などに関する実習を通じて、地域との繋がりを持ち、将来、地域を支えていく人材を育めるよう、地域や企業との連携を進めていくとのことであった。

事業概要の説明後、建設中の校舎を視察した。

【主な質問事項】

- ・ 募集定員と志願者数について
- ・ 志願者の居住地について
- ・ 通学時の交通の便について
- ・ 卒業年数の変更について
- ・ 現在の分校で卒業を控える生徒への対応について など



調査事項を聴取



改築中の校舎を視察